

景況などに関する会員アンケート

調査結果

平成 29 年 12 月

北陸経済連合会

目次

1. アンケート調査実施概要	1
2. アンケート調査結果概要	2
総括	2
I. 景気動向	3
II. 業績	5
III. その他（大学生のインターンシップについて）	7
（国際化について）	10
参考（アンケート調査結果）	11
I. 景気動向	11
II. 業績	14
III. その他（大学生のインターンシップについて）	16
（国際化について）	19

1. アンケート調査実施概要

○実施概要

北陸の景気動向や業況その他について、会員の意見、要望を迅速かつ的確に把握し、各方面への要望活動に活かすため、北陸地域の景況などに関するアンケート調査を実施した。[今回で38回目]

以下、その結果を報告する。

○調査時期

平成29年10月2日～10月16日

○調査対象

北陸経済連合会会員企業

○回収率

回答率55.1%（送付企業303社、回収数167社）

○調査企業概要

本社の所在地	回収数	割合
富山県	58	34.7%
石川県	53	31.7%
福井県	21	12.6%
北陸三県以外	35	21.0%
計	167	100.0%

資本金	回収数	割合
1億円未満	60	35.9%
1億円～10億円未満	39	23.4%
10億円以上	68	40.7%
計	167	100.0%

調査結果の取りまとめにおいては、規模別を以下の基準で分類することとする。

【規模別】

- 大企業：資本金10億円以上
- 中堅企業：資本金1億円以上10億円未満
- 中小企業：資本金1億円未満

	業種	回収数	割合
製造業	食料品製造業	3	1.8%
	繊維工業	4	2.4%
	木材・紙・パルプ製造業	0	0.0%
	出版・印刷・同関連業	3	1.8%
	化学工業	6	3.6%
	鉄鋼業・非鉄金属製造業	5	3.0%
	金属製品製造業	8	4.8%
	機械工業	6	3.6%
	その他製造業	16	9.6%
	小計	51	30.5%
非製造業	卸売業	15	9.0%
	小売業	7	4.2%
	建設業	27	16.2%
	電気・ガス・水道業	5	3.0%
	運輸業	8	4.8%
	農・林・漁業	0	0.0%
	鉱業	0	0.0%
	金融業・保険業	16	9.6%
	不動産	2	1.2%
	サービス業	23	13.8%
	その他の非製造業	13	7.8%
小計	116	69.5%	
計	167	100.0%	

2. アンケート調査結果概要

[総 括]

北陸の景気動向 ……足もとでは回復基調にあることがうかがえ、 来期についても、改善を見込んでいる

- ・現在の北陸地域の景気については、「すでに回復」「回復基調」とみる企業が前回調査に比べ増加（前回66.7%→今回71.3%）している。
- ・29年度上期の景気について、景気判断BSI（「良くなった」と答えた割合から「悪くなった」を引いた値）でみると、34.7（前回12.7）と改善している。
また、来期（29年度下期）の見通しについては20.4と今期（34.7）に引き続き、改善を見込む企業が上回っている。

業績 ……足もとでは改善傾向にあり、 来期についても、改善を見込む企業が増加

- ・現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が前回調査に比べ増加（前回37.0%→今回41.3%）している。
- ・29年度上期の業績について、業績判断BSI（「改善」と答えた割合から「悪化」を引いた値）でみると、今期は16.7と、前回調査（8.4）から改善している。
また、規模別では、大企業が13.2（前回8.0）、中堅企業が2.5（前回13.3）、中小企業が30.0（前回5.2）となり、特に中小企業において、業績が改善したとする企業が増加している。
- ・業績判断BSIの来期（29年度下期）の見通しについては28.1（今期16.7）と、改善を見込む企業が増加している。
- ・経営上の課題としては、「人材養成・確保」（79.6%）が最も多く、次いで「国内販売力の強化」（54.5%）となっている。

その他

1. 大学生のインターンシップについて

- ・インターンシップについて、2017年度には56.9%の企業が実施している。
- ・インターンシップの受入人数は10名以下が61.1%を占めている。受入人数のうち49.1%が北陸地域の大学出身者となっている。
- ・2018年度は60.5%の企業がインターンシップを実施するとしており2017年度56.9%よりも増加している。

2. 貴社の国際化について

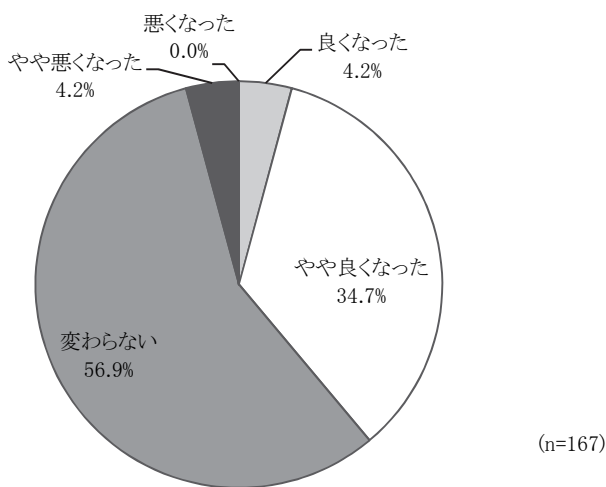
- ・今後、国際化について「拡大する」と答えた企業は34.7%であり前回調査（H27）35.0%とほぼ変わらない結果であった。
- ・生産拠点として有望な国のトップはベトナム、市場として有望な国のトップは中国となっている。

I. 景気動向

足もとでは回復基調にあることがうかがえ、
来期についても、改善を見込んでいる

- ・ 29年度上期の景気動向については、前期（28年度下期）と比べて「良くなった」「やや良くなった」と答えた企業が38.9%で、「やや悪くなった」「悪くなった」の4.2%を上回っている。また、景気は変わらないとみている企業が6割程度を占めている。（図表1）
- ・ 29年度上期の景気について、景気判断BSI（図表2、※）では34.7となり、前回調査の現状（28年度下期）判断の12.7から改善している。業種別にみると、製造業が47.0（前回15.0）、非製造業が29.2（前回11.4）と、どちらも改善している。
- ・ 来期（29年度下期）の見通しについては 20.4と今期(34.7)に引き続き、改善を見込む企業が上回っている。（図表2）
- ・ 29年度上期の北陸地域の景気については、「すでに回復」「回復基調」とみる企業が71.3%で、前回調査（66.7%）および「底這い」「下降」と見る企業（20.4%）を上回っている。（図表3）
- ・ 現在の景気が「すでに回復」「回復基調」とした企業について、回復した理由を尋ねたところ、「企業収益の回復」が56.3%と最も多く、「設備投資の回復」が44.5%、「個人消費の回復」が26.9%で続いている。（図表4）
- ・ 一方、現在の景気が「底這い」「下降」とした企業に対し、今後回復に転じると予想される時期について尋ねたところ、29年度下期が2.9%、30年度上期が23.5%、下期が11.8%、31年度上期以降とみる企業が41.2%となっている。（図表5）

図表1. 平成29年度上期の景気（前期比）



図表2. 平成29年上期の景気判断と見通し

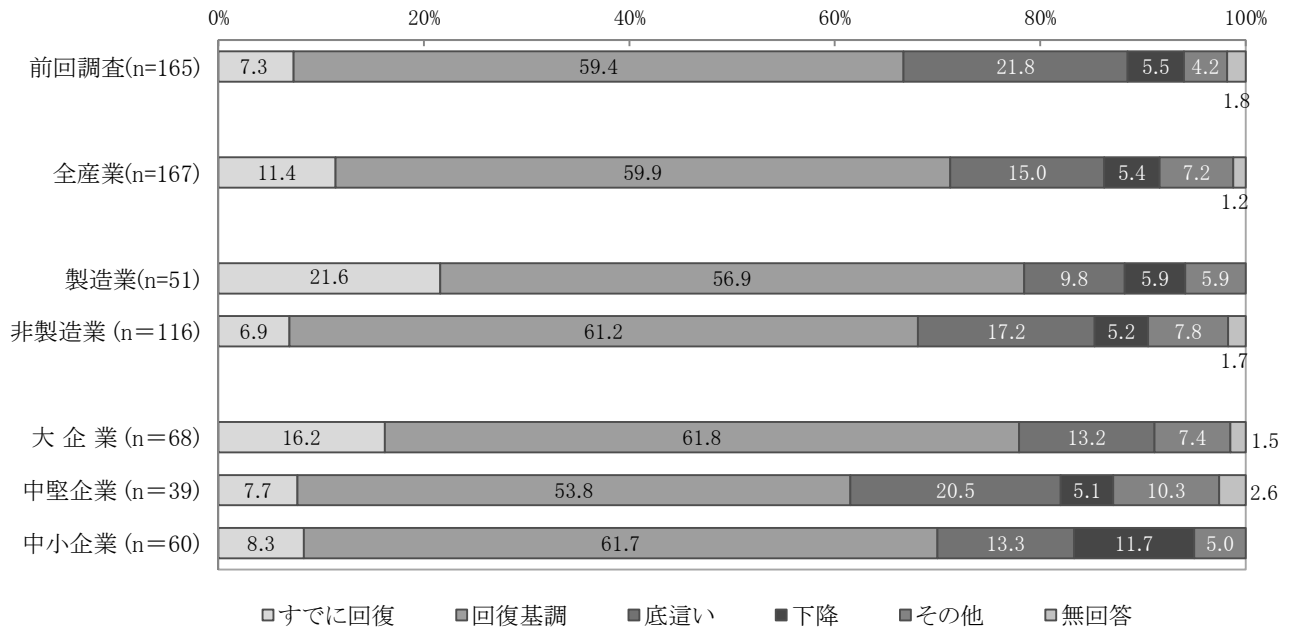
※景気判断BSI

（「良くなった」「やや良くなった」） - （「悪くなった」「やや悪くなった」）社数構成比 単位：%ポイント

	前回調査		今回調査			
	28年10～3月(前期)		29年4～9月(今期)		29年10～3月(見通し)	
	景気判断BSI	景気判断BSI	変化幅	景気判断BSI	変化幅	
全産業	12.7	34.7	22.0	20.4	▲ 14.3	
業種	製造業	15.0	47.0	32.0	33.3	▲ 13.7
	非製造業	11.4	29.2	17.8	14.7	▲ 14.5
規模	大企業	17.5	39.7	22.2	23.5	▲ 16.2
	中堅企業	8.9	25.7	16.8	15.4	▲ 10.3
	中小企業	10.5	34.9	24.4	20.0	▲ 14.9

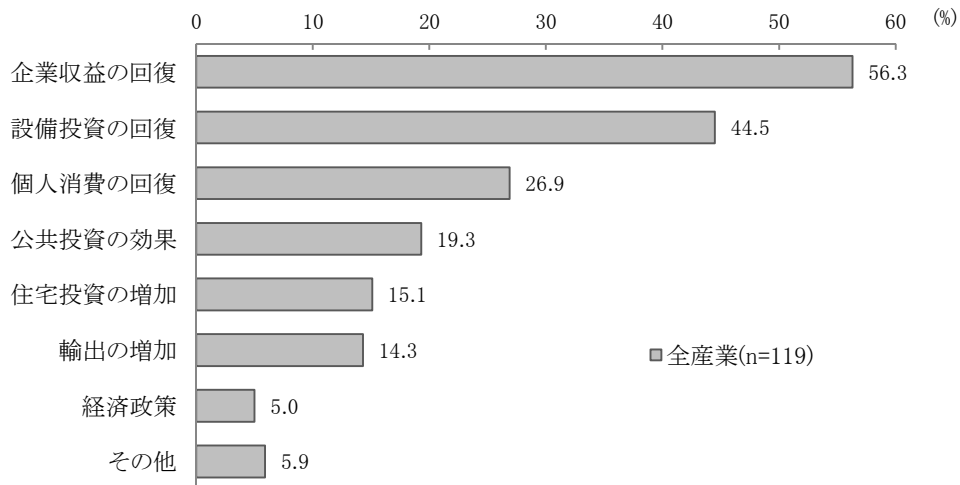
注) 29年4～9月(今期)の変化幅は28年10～3月(前期)との対比、29年10～3月(見通し)の変化幅は29年4～9月(今期)との対比。

図表3. 平成29年度上期の景気基調



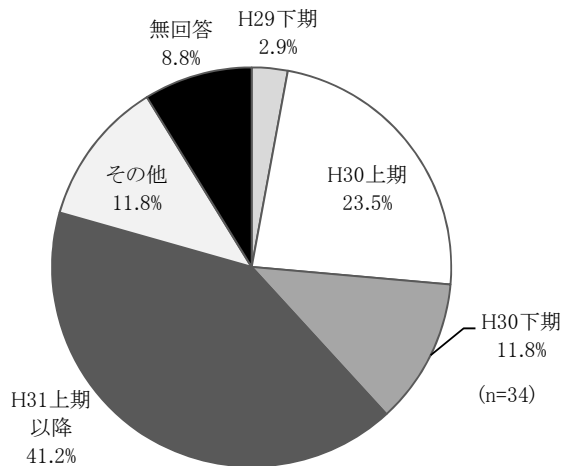
図表4. 平成29年度上期の景気が良い理由（複数回答）

景気が「すでに回復」「回復基調」と回答された企業



図表5. 北陸地域の景気が回復に転じる時期

景気が「底這い」「下降」と回答された企業



Ⅱ. 業績

足もとでは改善傾向にあり、 来期についても、改善を見込む企業が増加

- ・ 29年度上期の業績について、業績判断BSI（図表6 ※）の現状判断は、16.7となり、前回調査（28年度下期）の8.4から改善している。
- ・ 業種別でみると、製造業が39.2（前回16.7）、非製造業が6.9（前回3.8）と、どちらも改善している。
規模別では、大企業が13.2（前回8.0）、中堅企業が2.5（前回13.3）、中小企業が30.0（前回5.2）となり、特に、中小企業において、業績が改善したとする企業が増加している。（図表6）
- ・ 来期（29年度下期）の見通しについては28.1（今期16.7）と、改善を見込む企業が増加している。業種別でみると、製造業が33.3、非製造業が25.7といずれも改善を見込む企業が上回っている。また、規模別でみると、大企業は26.5（今期13.2）、中堅企業は20.5（今期2.5）、中小企業は35.0（今期30.0）とそれぞれ改善を見込んでいる。（図表6）
- ・ 現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が41.3%（前回37.0%）、「悪い」「大変悪い」とみている企業が13.2%（前回19.4%）となっている。（図表7）
- ・ 経営上の課題では、「人材養成・確保」（79.6%）が最も多く、次いで「国内販売力の強化」（54.5%）となっている。（図表8）

図表6. 平成29年度上期の業績判断と見通し

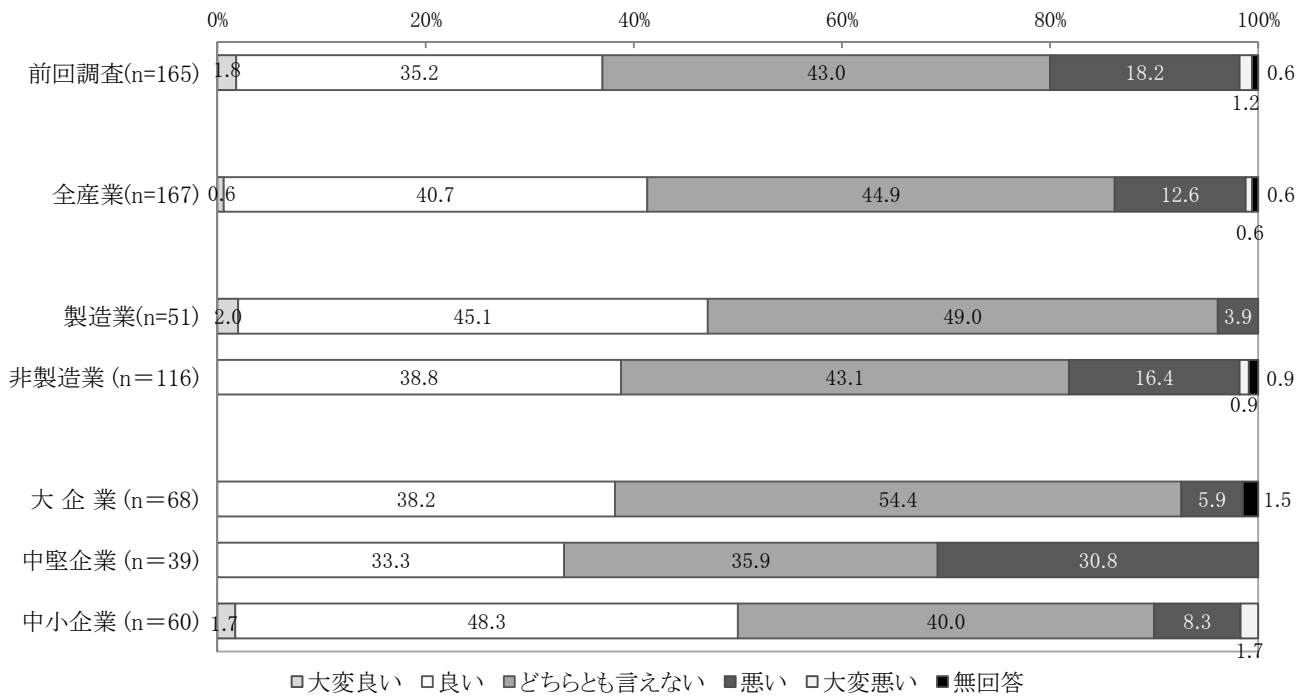
※業績判断BSI

（「改善」「やや改善」） - （「悪化」「やや悪化」）社数構成比 単位：%ポイント

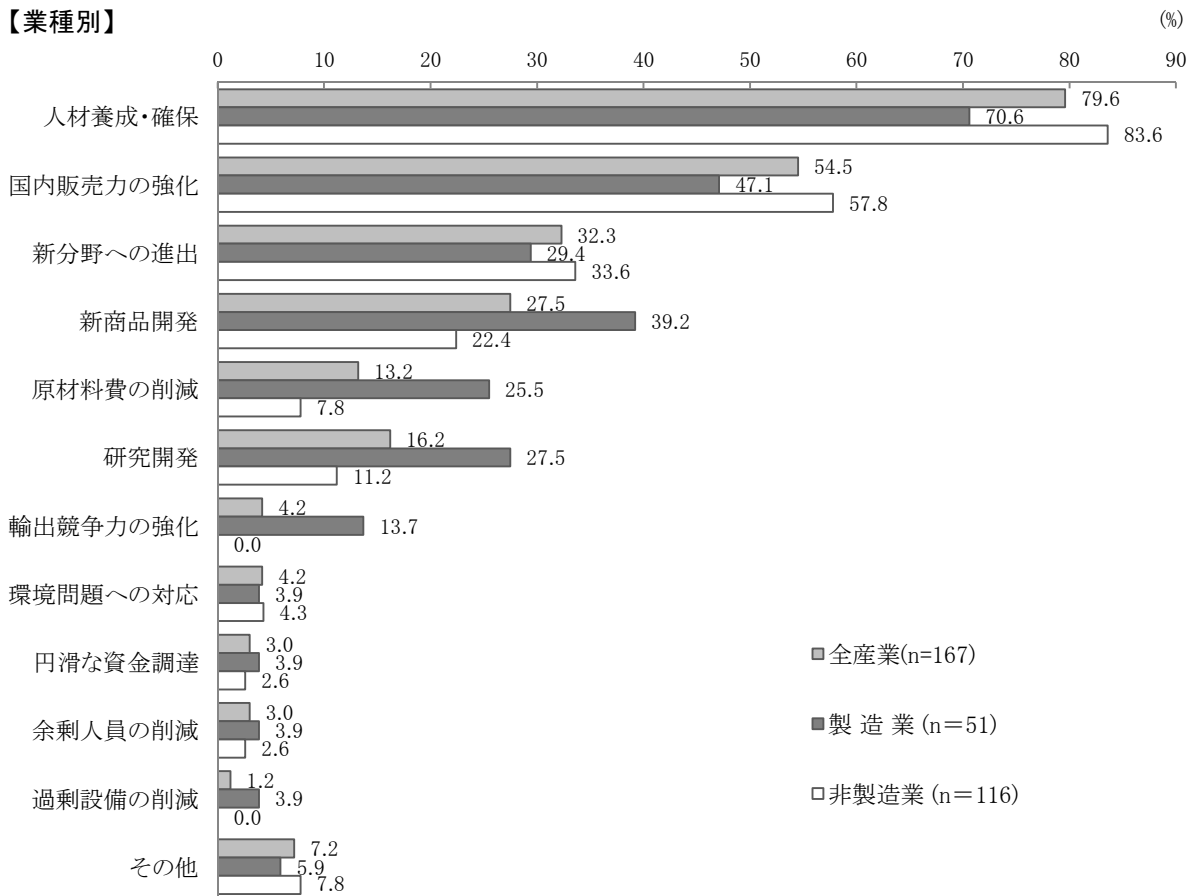
		前回調査		今回調査			
		28年10～3月(前期)		29年4～9月(今期)		29年10～3月(見通し)	
		業績判断BSI		業績判断BSI	変化幅	業績判断BSI	変化幅
	全産業	8.4		16.7	8.3	28.1	11.4
業種	製造業	16.7		39.2	22.5	33.3	▲ 5.9
	非製造業	3.8		6.9	3.1	25.7	18.8
規模	大企業	8.0		13.2	5.2	26.5	13.3
	中堅企業	13.3		2.5	▲ 10.8	20.5	18.0
	中小企業	5.2		30.0	24.8	35.0	5.0

注) 29年4～9月(今期)の変化幅は28年10～3月(前期)との対比、29年10～3月(見通し)の変化幅は29年4～9月(今期)との対比。

図表7. 現在の業績水準



図表8. 経営上の課題 (3つまで回答)

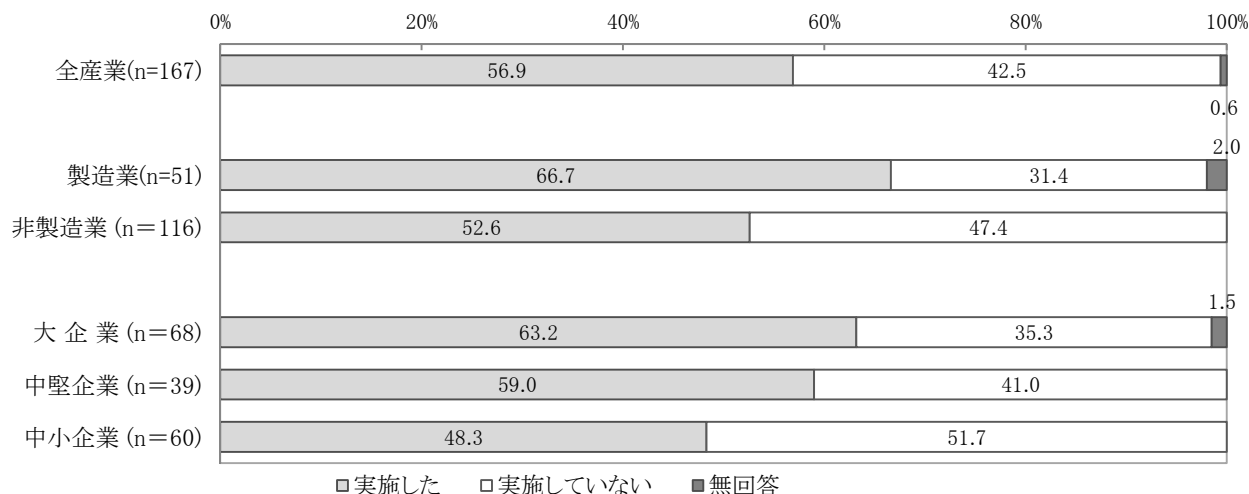


Ⅲ. その他

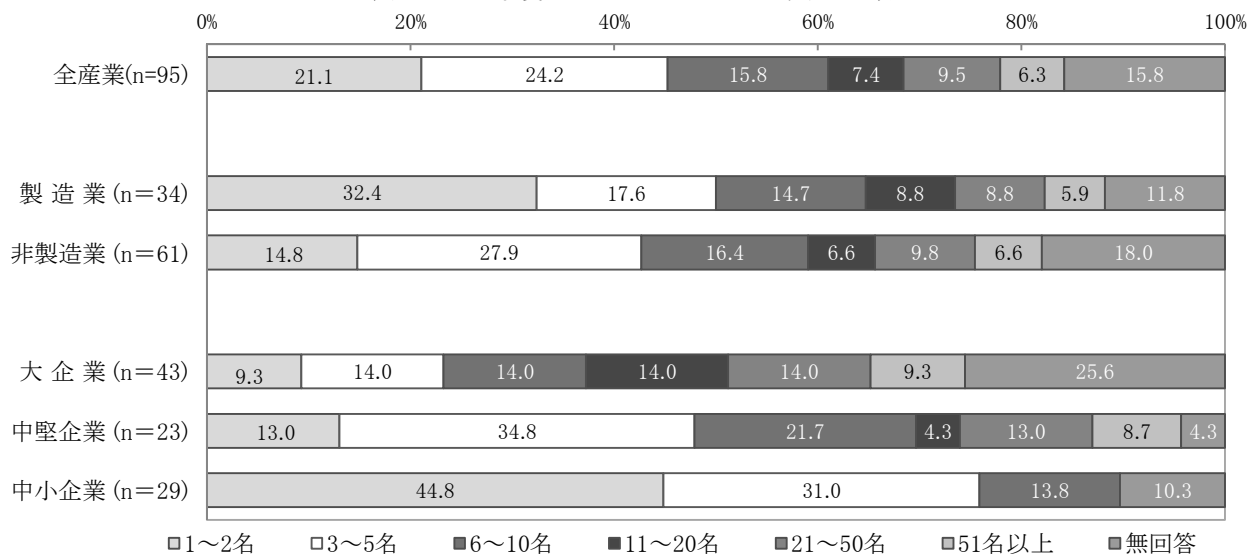
1. 大学生のインターンシップについて

- ・ インターンシップについて、2017年度には56.9%の企業が実施している。（図表9）
- ・ インターンシップの受入人数は、10名以下が61.6%を占めている。中小企業では2名以下が44.8%を占める（図表10）
- ・ インターンシップの受入人数のうち、49.1%が北陸地域の大学出身者である。中小企業では89.3%と北陸地域の大学出身者の比率が高くなっている。（図表11）
- ・ インターンシップの受入人数に占める留学生の比率は0.8%であった。（図表12）
- ・ インターンシップの受入期間は1週間以下が69.2%を占めている（図表13）
- ・ 2018年度は60.5%の企業がインターンシップを実施するとしており2017年度56.9%よりも増加している。（図表14）

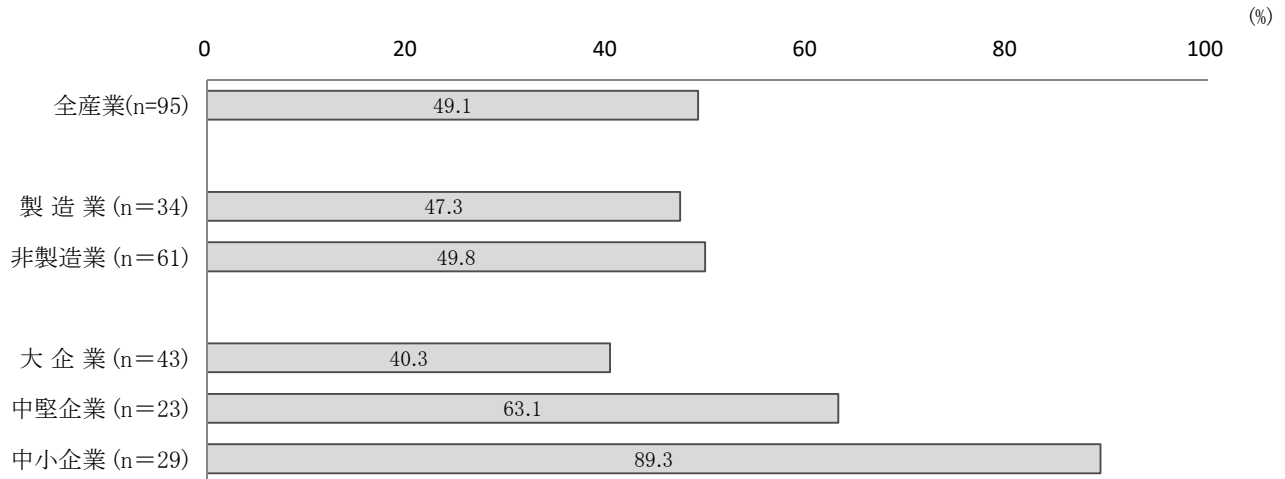
図表9. 2017年度インターンシップの実施



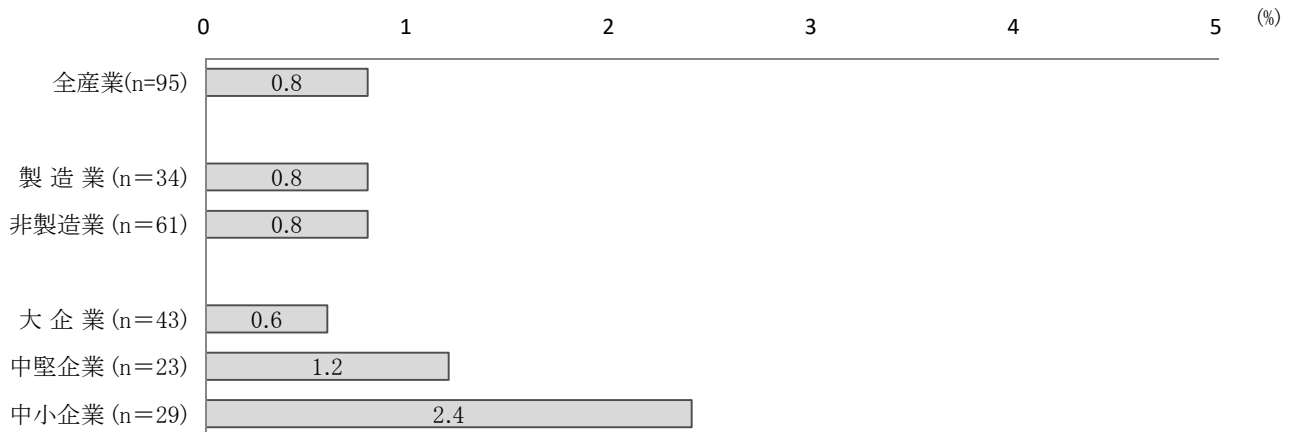
図表10. 2017年度インターンシップの受入人数



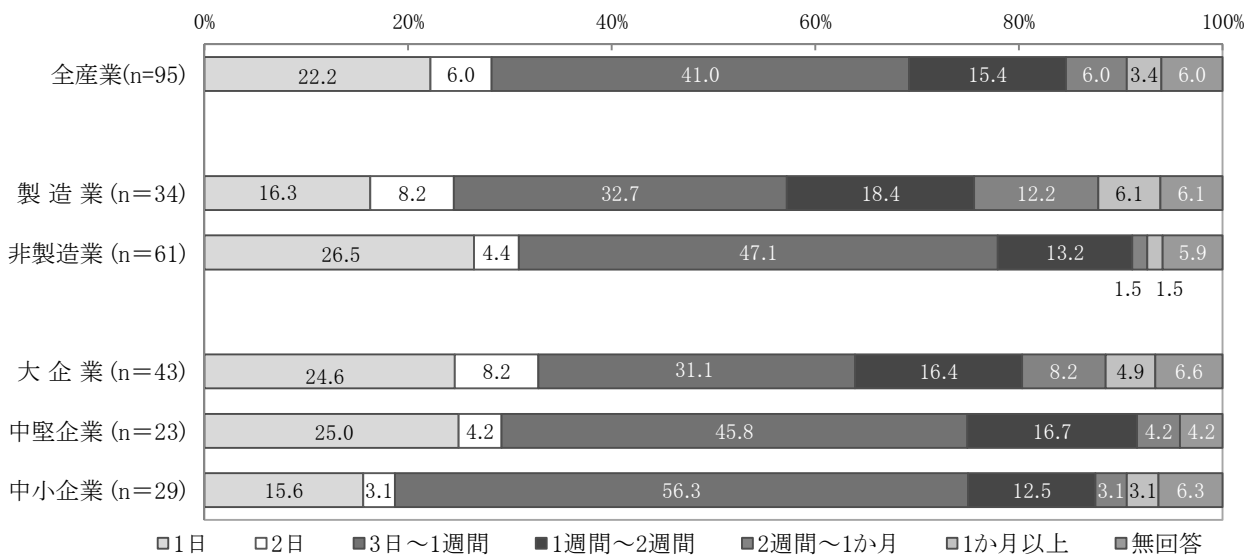
図表11. 北陸地域の大学からの受入人数の比率



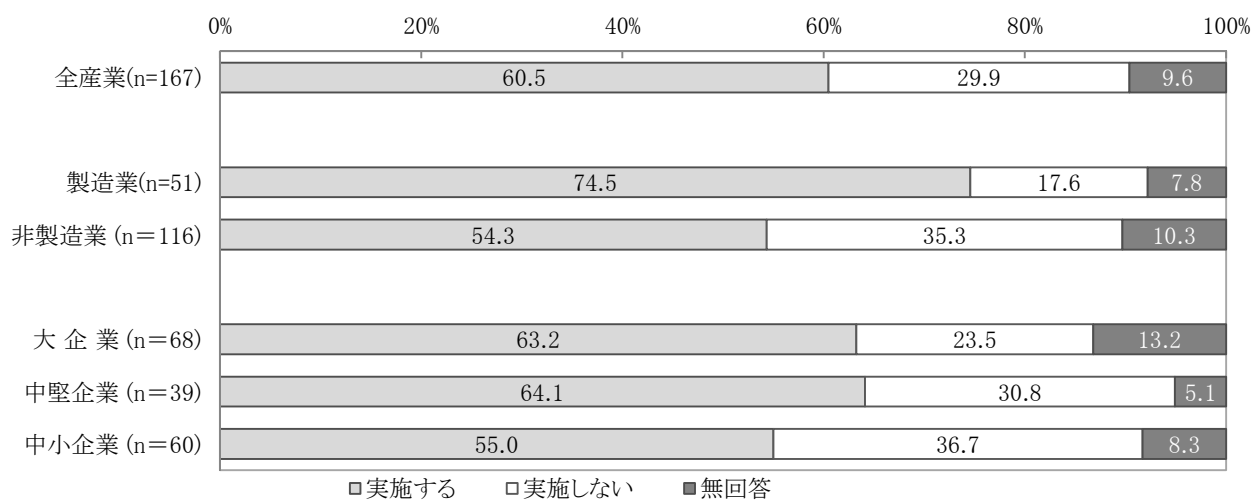
図表12. 留学生の受入人数の比率



図表13. インターンシップの実施期間



図表14. 2018年度インターンシップの実施予定



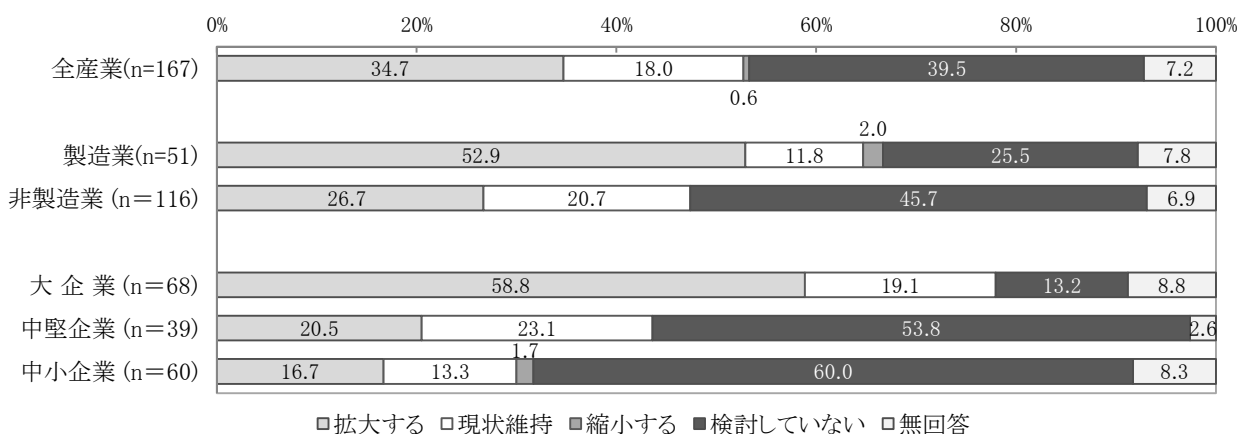
Ⅲ. その他

2. 貴社の国際化(※)について

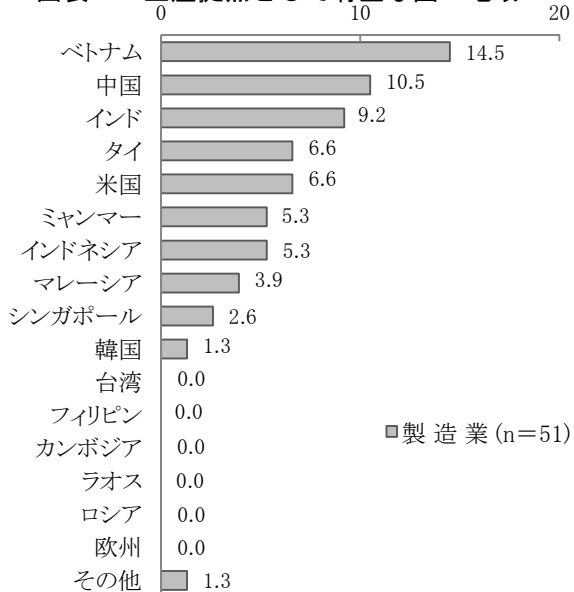
(※貿易取引や海外企業との提携、海外進出など幅広い企業活動を指す)

- ・ 今後、国際化について「拡大する」と答えた企業は34.7%、「現状維持」は18.0%であった。
- ・ 業種別に見ると「拡大する」と答えた企業は製造業で52.9%であるのに対し、非製造業では26.7%となっている。また、企業の規模別に見ると大企業が58.8%、中堅企業が20.5%、中小企業が16.7%と規模が大きいほど「拡大する」と回答している比率が高い。(図表15)
- ・ 今後、生産拠点として有望な国・地域について、ベスト3はベトナム(14.5%)、中国(10.5%)、インド(9.2%)となった。(図表16)市場として有望な国・地域について、ベスト3は中国(9.6%)、インドネシア(8.5%)、タイ(7.0%)となった。(図表17)

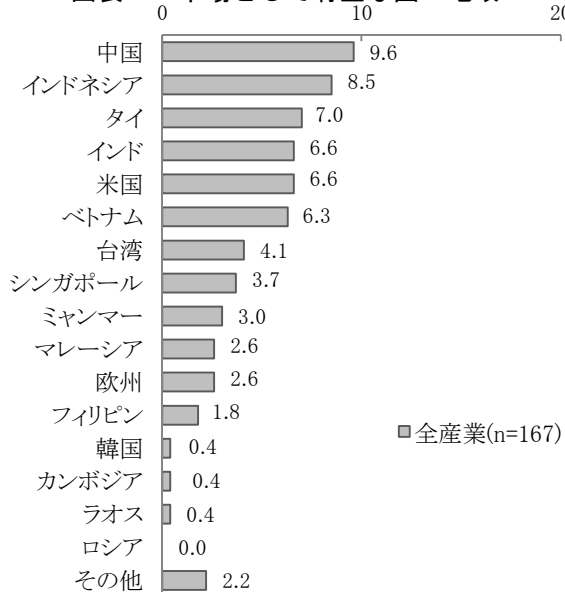
図表15. 国際化について



図表16. 生産拠点として有望な国・地域 (%)



図表17. 市場として有望な国・地域 (%)

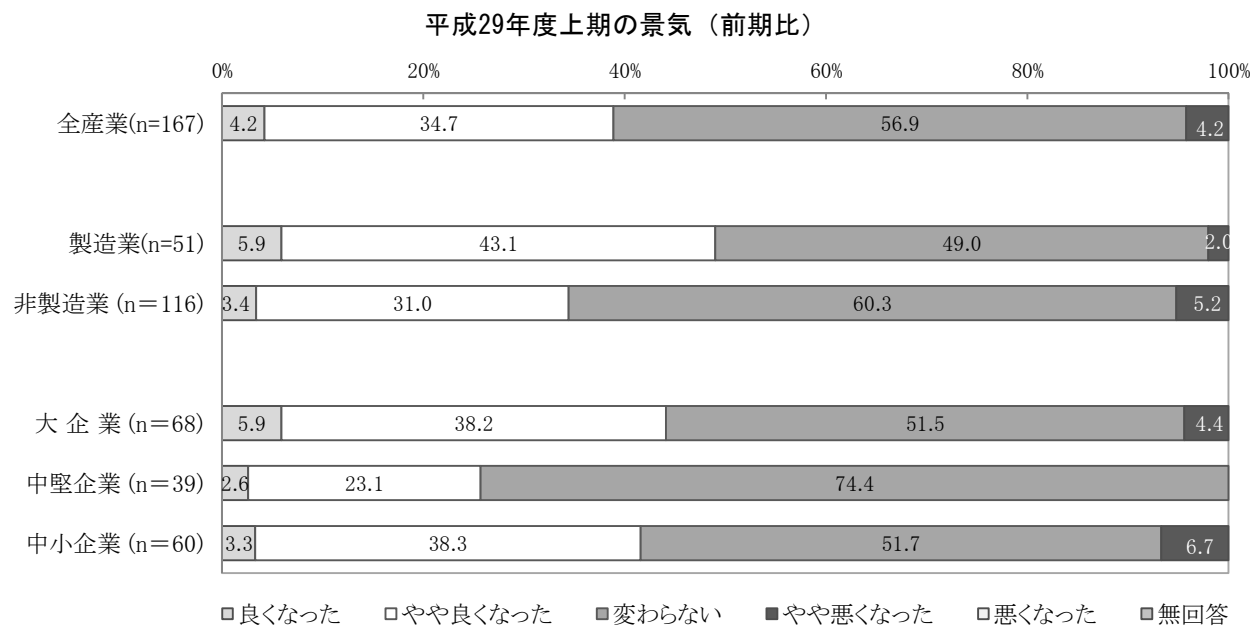


参考(アンケート調査結果)

I 景気動向

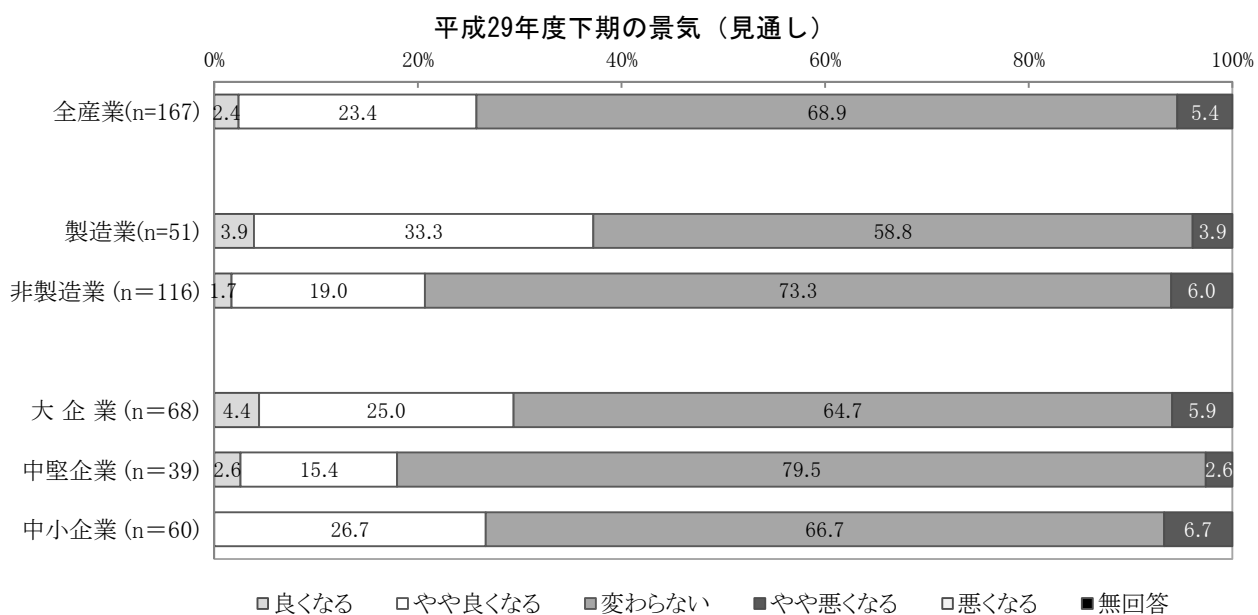
Q.1

北陸地域の平成29年度上期(4月～9月)の景気は平成28年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化したと思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

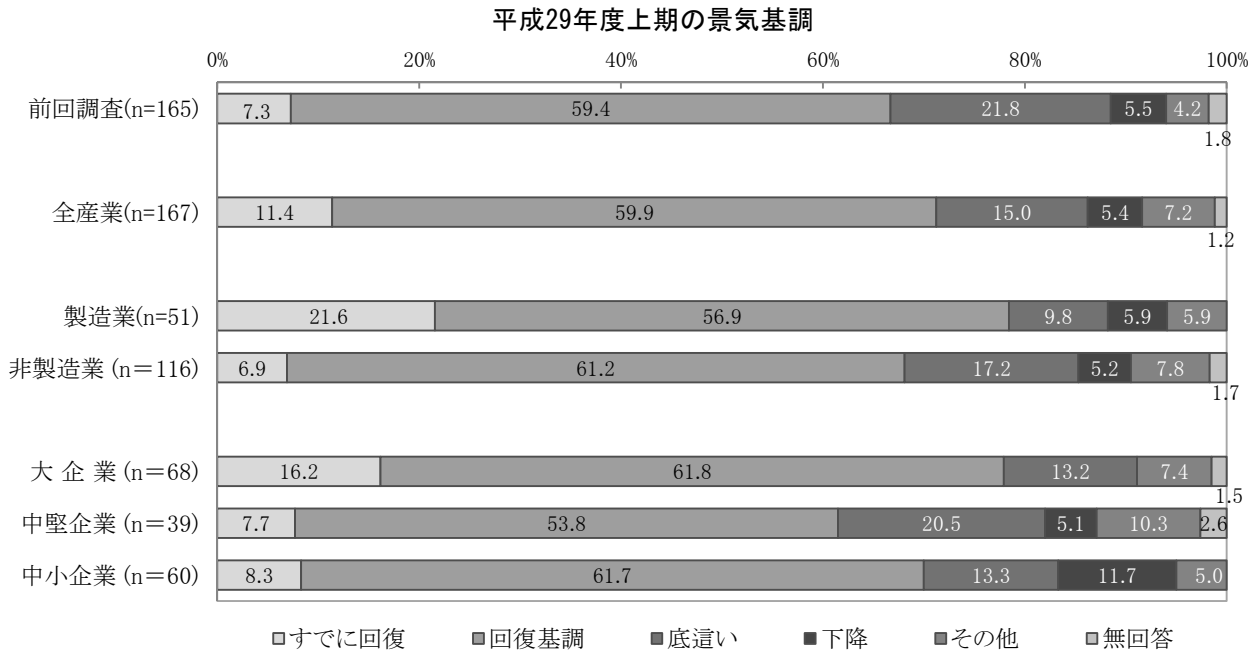
北陸地域の平成29年度下期(10月～3月)の景気は平成29年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



I 景気動向

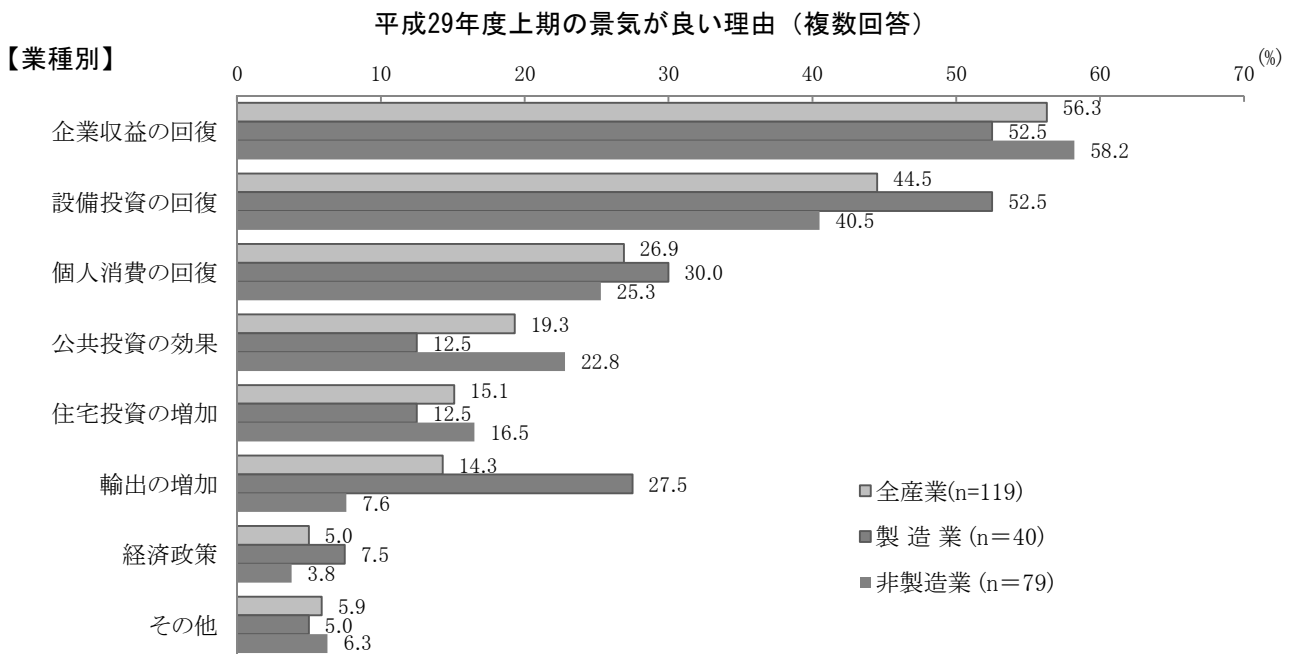
Q.3

平成29年度上期(4月～9月)の北陸地域の景気は基調として以下のどの局面にあると判断されていますか。



Q.4

Q.3で「すでに回復」「回復基調」と回答された方へ
平成29年度上期(4月～9月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)



◎経済政策の具体的な回答

- ・北陸新幹線延伸工事
- ・円安、安定政権

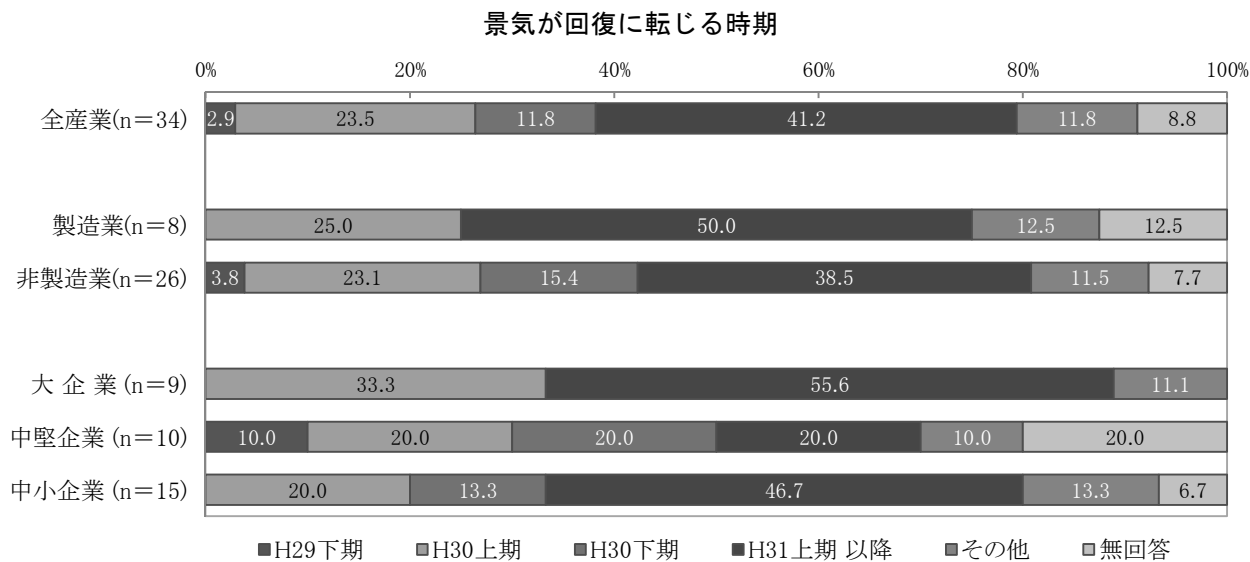
◎その他の具体的な回答

- ・北陸新幹線効果
- ・インバウンド増加

I 景気動向

Q.5

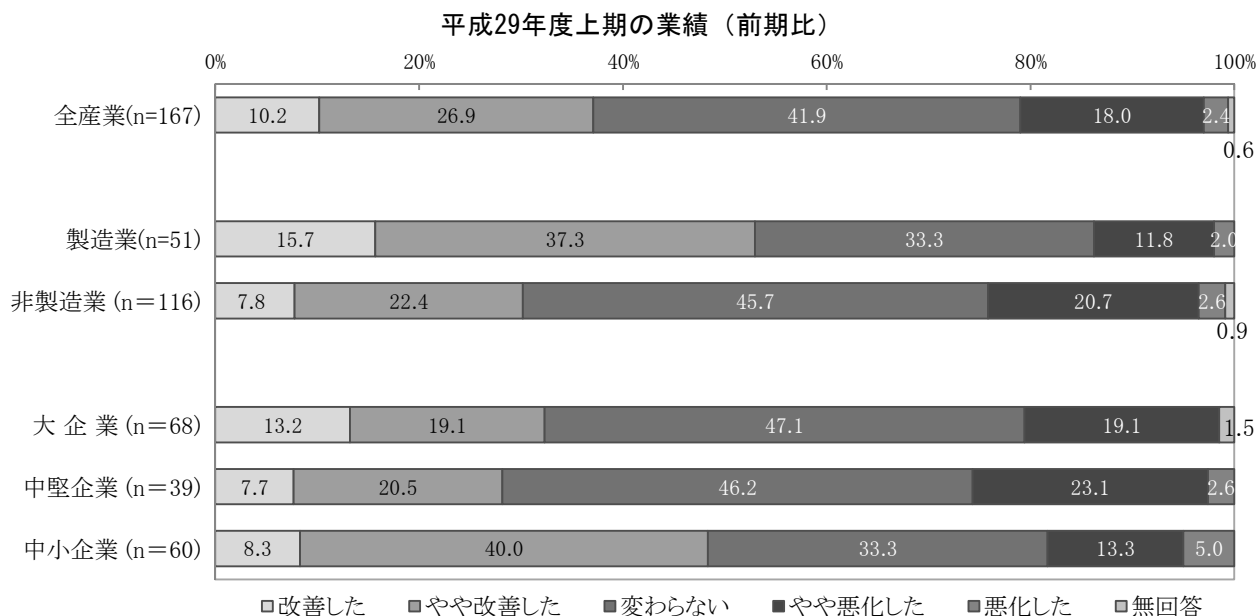
Q.3で「底這い」「下降」と回答された方へ
北陸地域の景気が今後回復に転じると予想される時期はいつ頃と思われますか。



II 業績

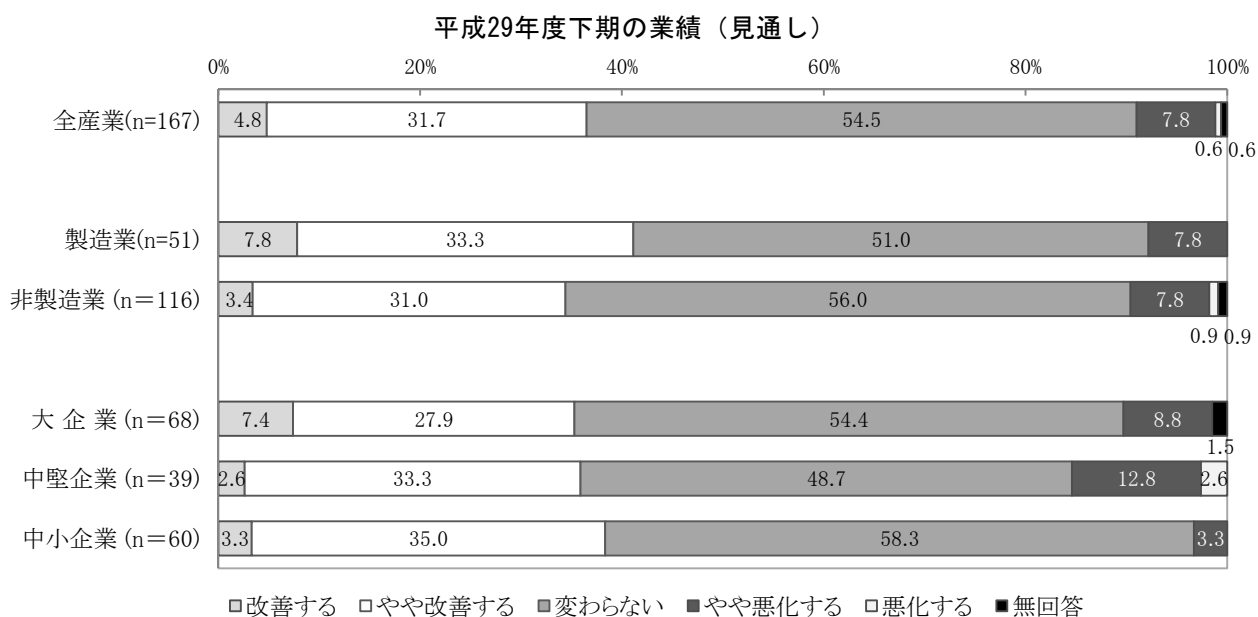
Q.1

貴社の平成29年度上期(4月～9月)の業績は、平成28年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化しましたか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

貴社の平成29年度下期(10月～3月)の業績は、平成29年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)

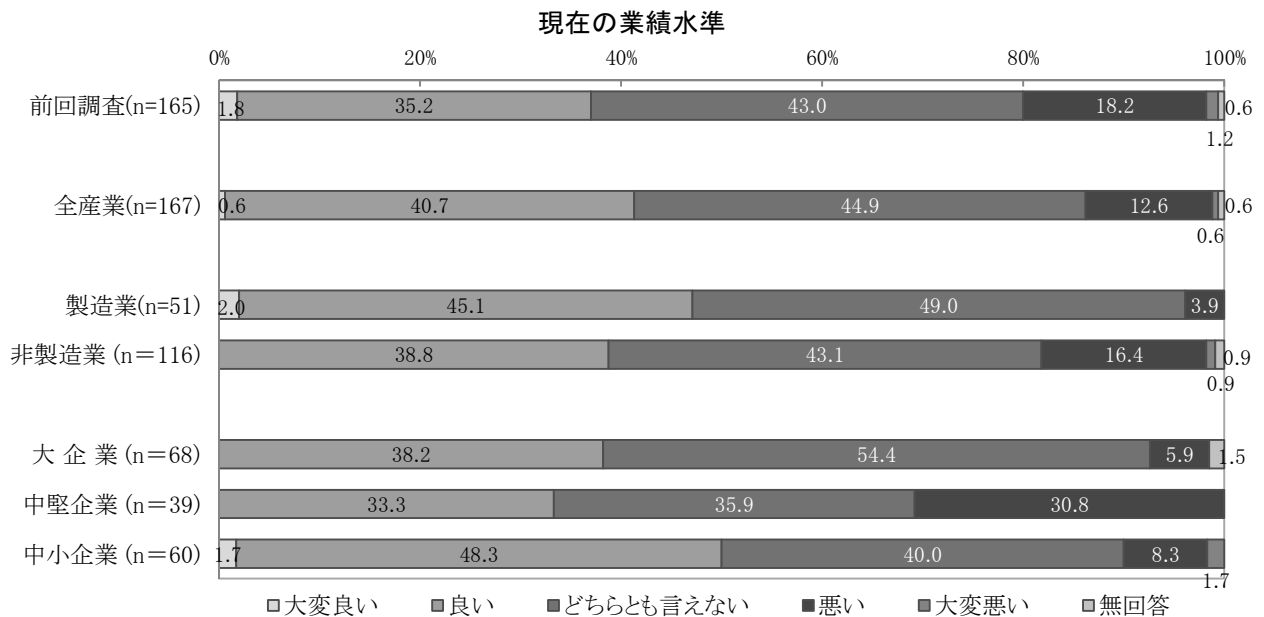


II

業績

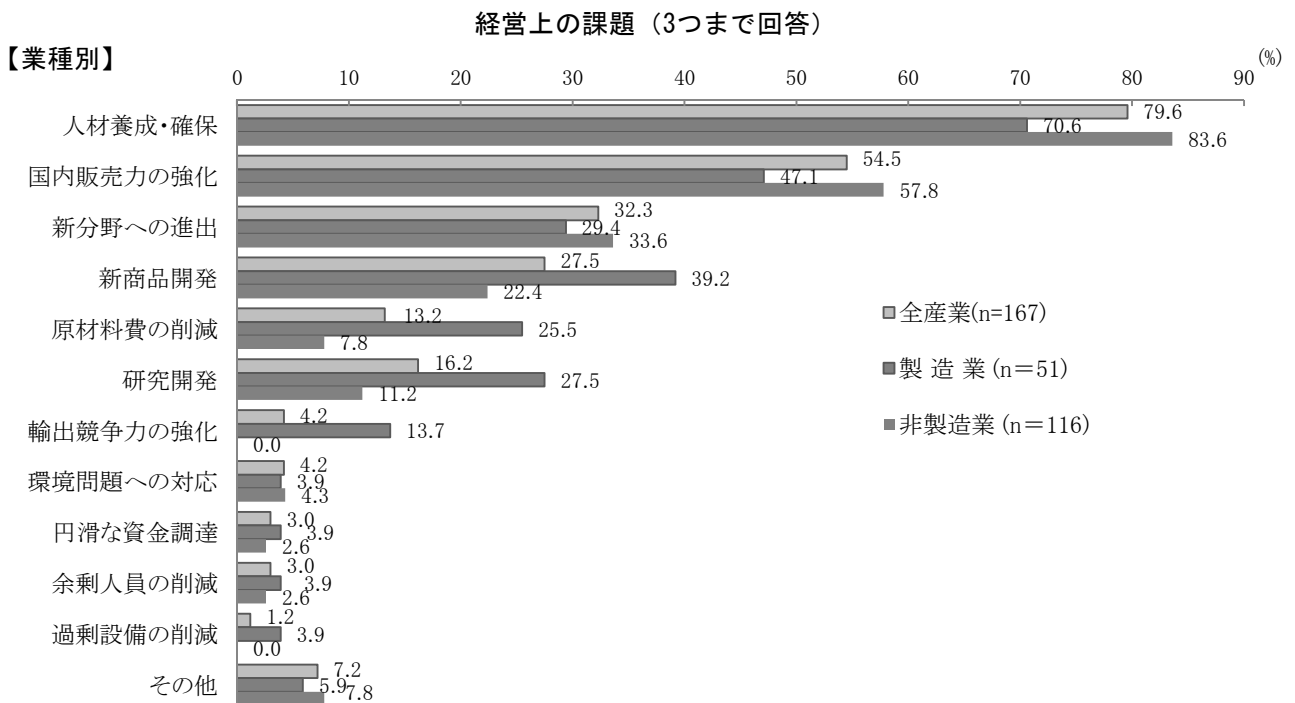
Q.3

現在の貴社の業績水準についてどう思われますか。



Q.4

貴社にとっての経営上の課題は、どのような点でしょうか。(3つまで回答可)



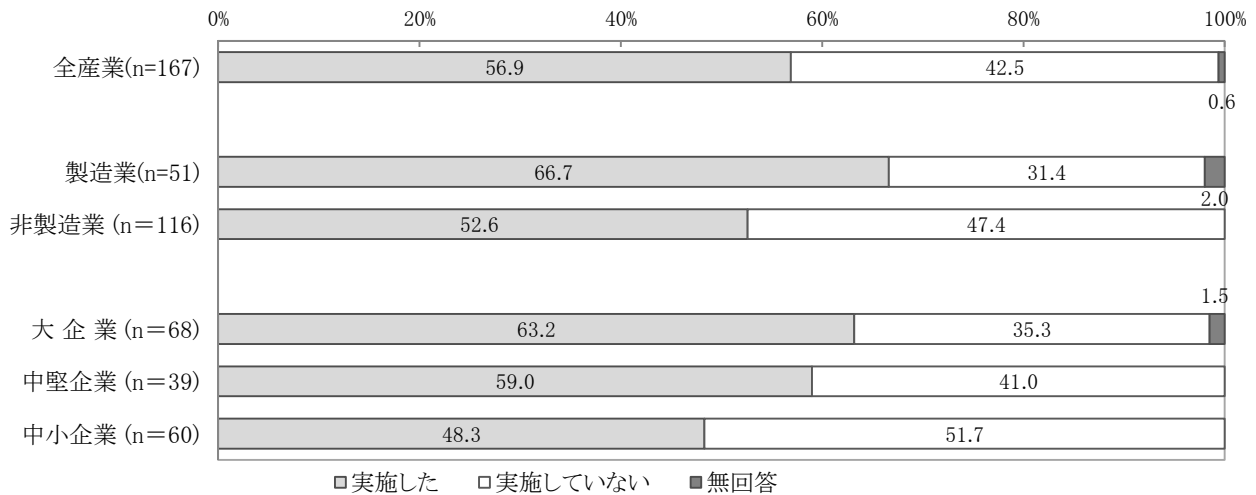
III その他

1. 大学生のインターンシップについてお聞きします。

Q.1

2017年度にインターンシップを実施（予定含む）されましたか。

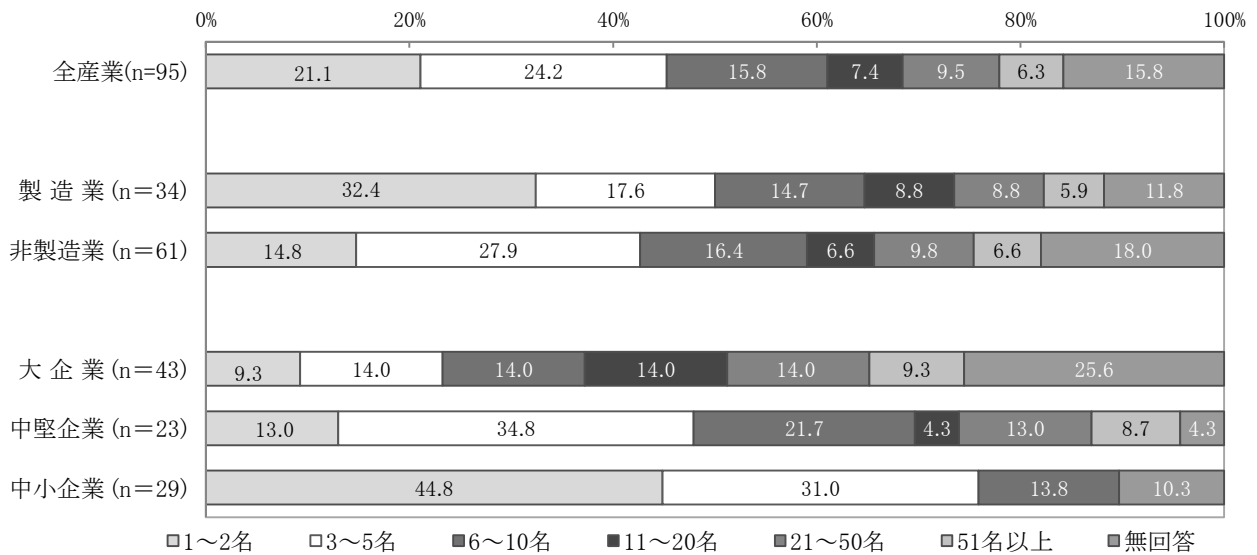
2017年度インターンシップの実施



Q.2-1

インターンシップの受入人数をお教え下さい。

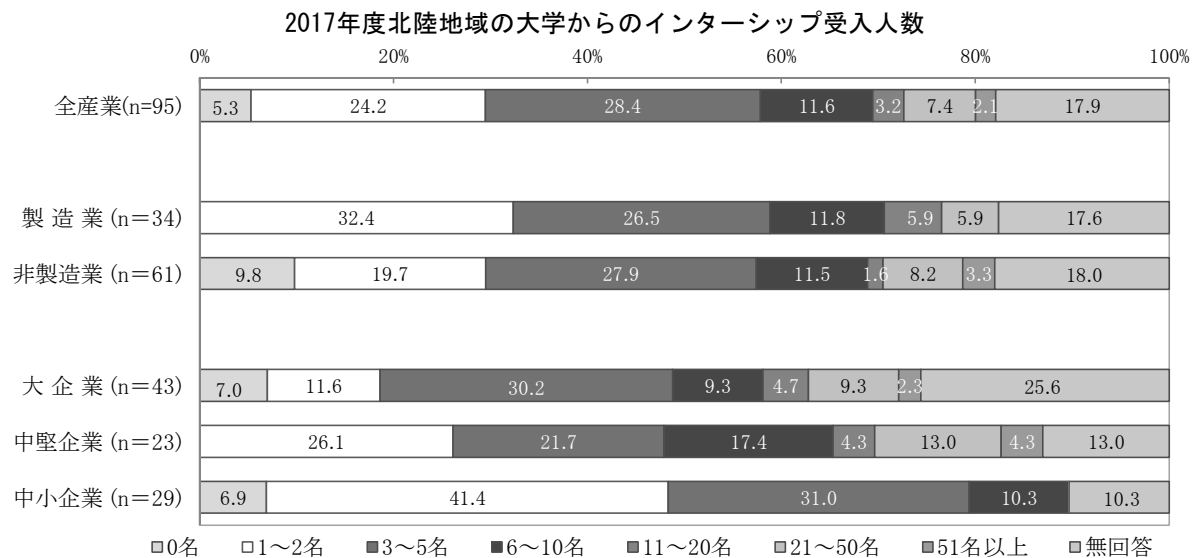
2017年度インターンシップの受入人数



III その他

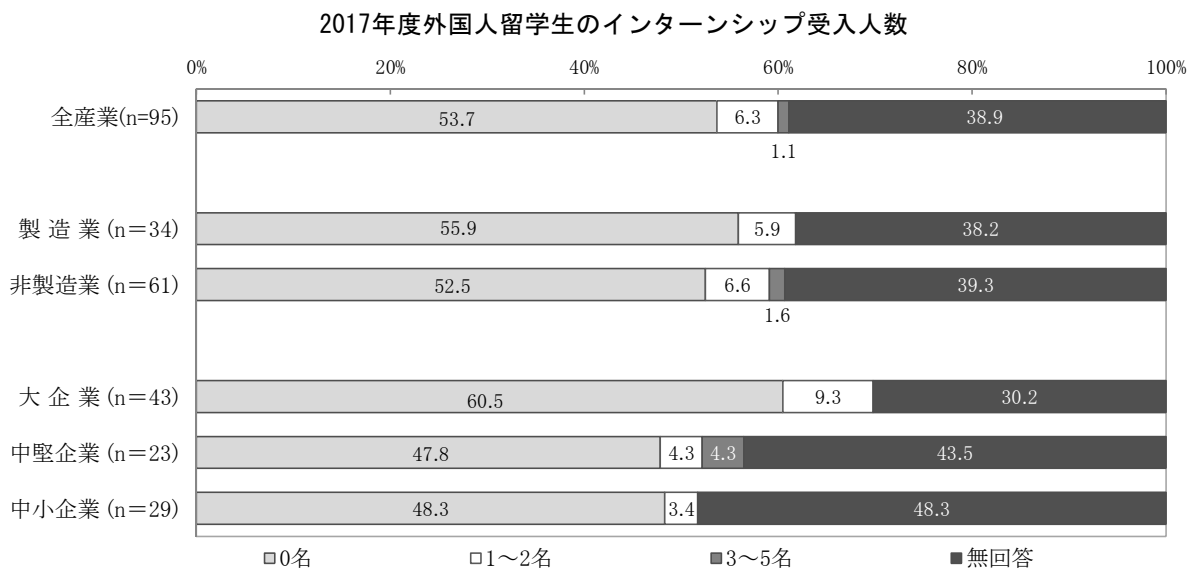
Q. 2-2

北陸地域の大学からのインターンシップの受入人数をお教えてください。



Q. 2-3

外国人留学生のインターンシップ受入人数をお教え下さい。

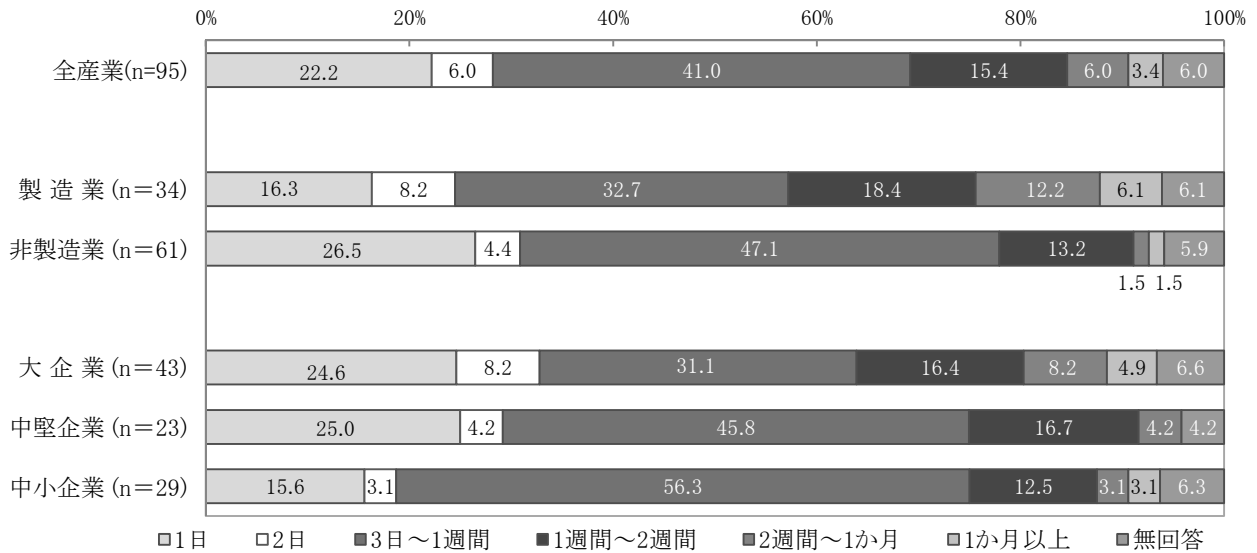


III その他

Q.3

インターンシップの実施期間をお教え下さい。

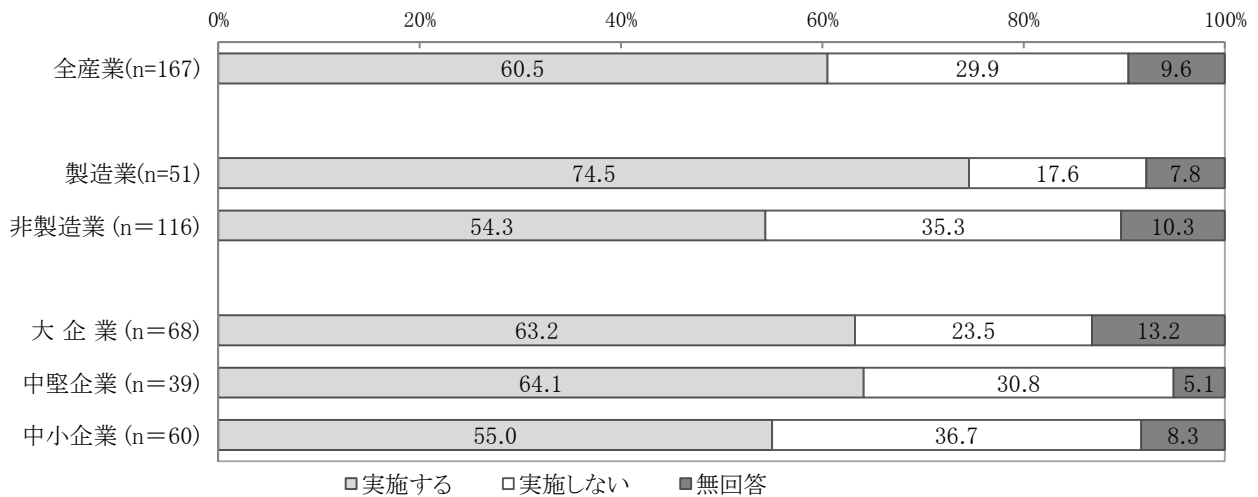
2017年度インターンシップの実施期間（複数回答）



Q.4

来年度のインターンシップの実施予定についてお教えください。

来年度のインターンシップの実施予定



Q.5

インターンシップに関する意見

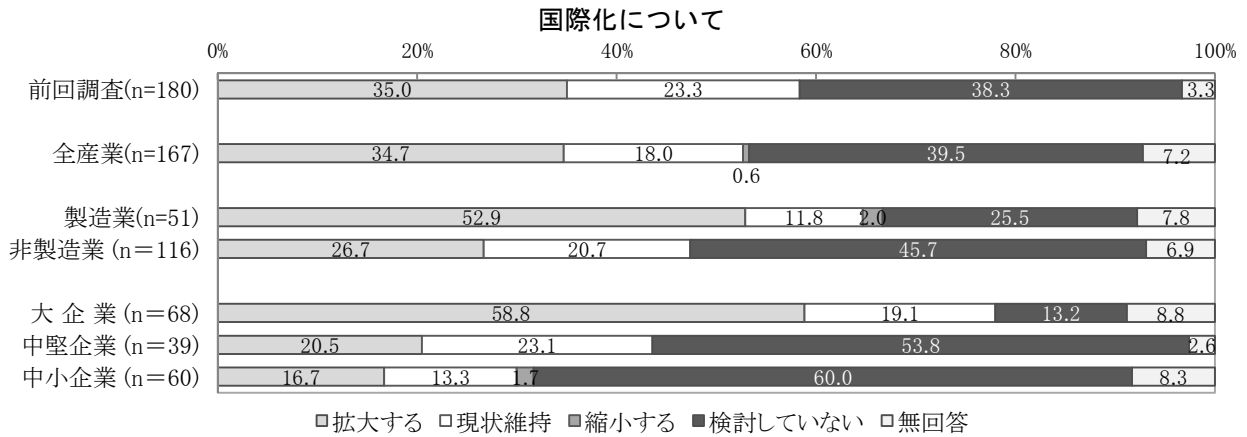
- ・ 学生に事業内容や職場の雰囲気などを知ってもらえる良い機会である。
- ・ 学生の意識が高く、年々会社選択(入社選択)の重要な機会として捉える傾向が強くなっている。
- ・ 学生・企業ともにミスマッチの防止に効果的である。
- ・ 採用に役立っている。
- ・ なかなか採用に結びつかない。
- ・ 人手不足のため、インターンシップの受入が困難。

III その他

2. 貴社の国際化（※）に関する考えについてお聞きします。
 （※ 貿易取引や海外企業との提携、海外進出など幅広い企業活動を指す）

Q.1

貴社は国際化について、今後どのように取り組みますか。

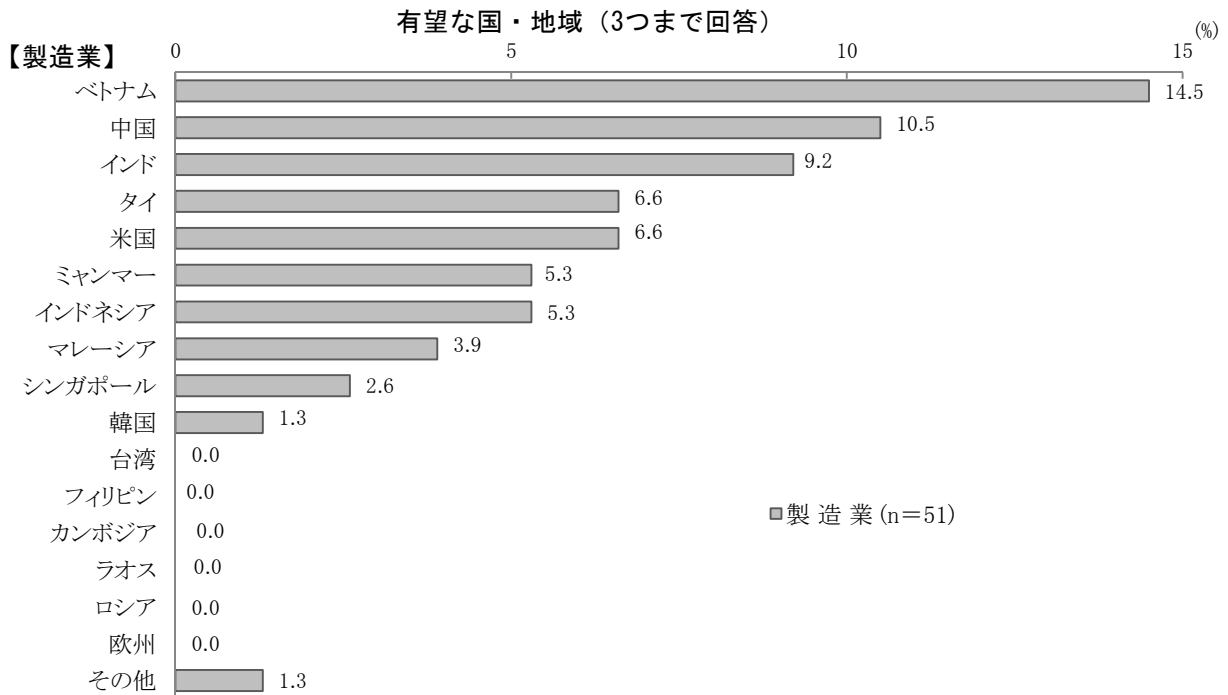


◎検討していない理由

- ・国際化のインセンティブがない
- ・国内生産で手一杯
- ・営業区域が国内のみ

Q.2-1

今後5年程度で、生産拠点として有望な国・地域はどこですか。
 また、その理由は何ですか。（3つまで回答可）



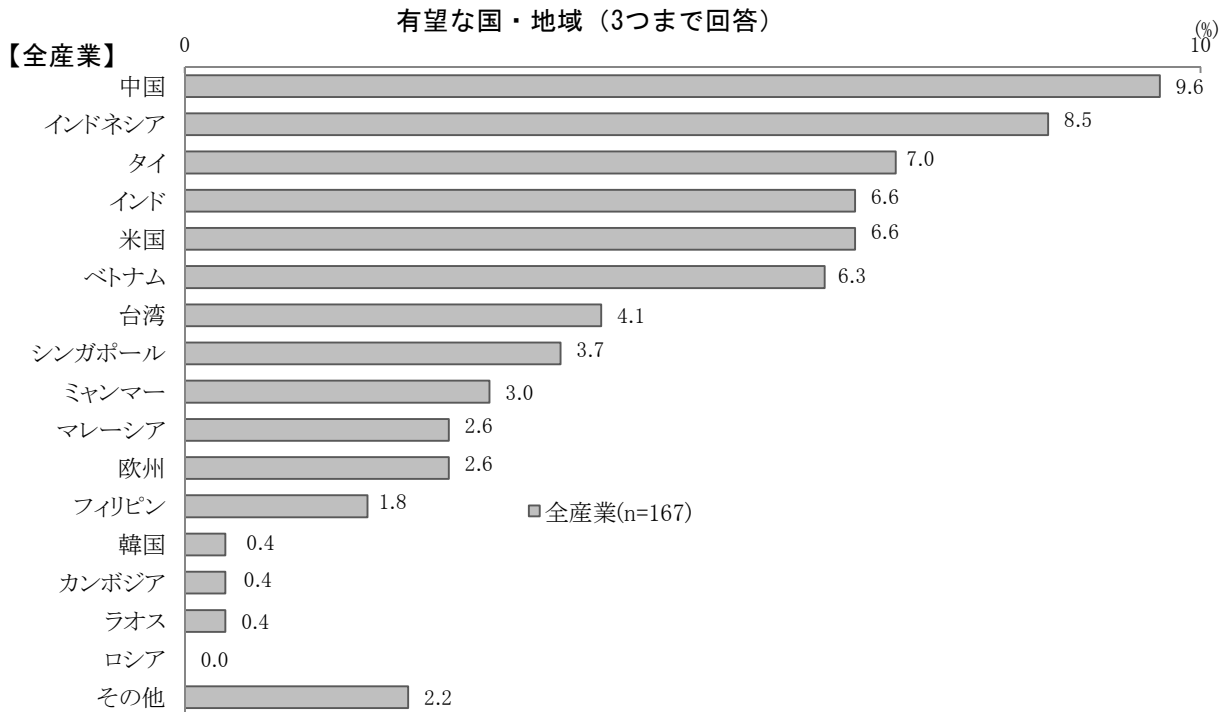
◎有望な理由

- ・労働力となる人口が多い
- ・人件費が安い
- ・労働力の質が高い

III その他

Q. 2-2

今後5年程度で、市場として有望な国・地域はどこですか。
また、その理由は何ですか。(3つまで回答可)



◎有望な理由

- ・人口が多い、人口増加が見込まれる
- ・経済発展が見込まれる
- ・取引先企業、グループ会社の進出先
- ・比較的政情が安定



はじめよう、北陸サクセス。

平成29年12月発行

北陸経済連合会

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

〒920-0981 金沢市片町2-2-15 北国ビルディング4階

TEL : 076-232-0472 FAX : 076-262-8127

e-mail info@hokkeiren.gr.jp

URL <http://www.hokkeiren.gr.jp>

北陸物語 facebook

<https://www.facebook.com/hokuriku.monogatari>